



天明太平記

拾三

~ 13
3315
13



牛本

池清

右の外數品所應比寫法說之程奉烈也

目錄

一 指運上 沙吟味 上 沙免 事

一 書并 神意及 京起 隆勅 上 話 事

一 依免 大 仍 院 仕 事

天正十一年八月廿九日
本大學出版部

翻 譚 書
倭 軍 書
唐 軍 書
隨 筆 物
國々名所
近世戦争書類

繪本

曲阜馬琴之作
其外諸先生作

書本

軍書
敵討
諸家騷動

滑稽物

御捌物

右の外數品所應比寫法說之程奉烈也

書物債本所

東京牛込細工所
誠史堂 池田屋清吉

天正
3315
13

牛
池清

天正三年元春十一

諸運上門吟味と上沙免の事

長赤井御前及御事屋より信行より度

阿由諸門何人より海防の事及御事

吟味におまより竹とる諸運上と度及度

長赤井御前吟味と上沙免の事

杉平圓所より及御事屋より度及御事

危指より御事屋より度及御事

自為政之風脚跡一夫りし職道令假を
田舎合門より四年の達をせし門よふ
作あききくもあを極り大中名市行代
官中觸り候之候政力新造一上軍也
達をせし中め之政行をせし候方りを
情めしし政行政力中夜に入るは因元
跡より日向蘭産南古三有政願山赤洞
合し和真門政國師三之匠を情し政願

控めし之を政行に入候し二ヶ条沙ありを
三ヶ条成りし政行を政行例候は免し加
増之千名ありしと早日因門作有るに難
く由法也

女職無令之事候所ゆ千智道隆を云け
医師之女道隆ハと為政意と家あり
毒し親ありは是れ竹島所ハ任存し
漸々自平の町匠あり候と云

妻の達の病を治すに力を使ふにせしむるに
其の徳を医師と爲さんと請ふ人を得
し様く門見見治るに沙書醫師と爲
し後門曲薬と爲す醫師よりある
高利の金を貸すは爲す金と爲す
貸すは救済の爲すに門見見治るに
寄る爲すに市をあるに爲す爲すは
め其商人を治るに元あるに金を貸

おまけは是れに敵を治るに金を貸すに
次中目付方角を治るに爲すは
向藤屋医士と爲すに爲すは
持めて門見見に治るに爲すは
おまけは是れに門見見を治るに
後中目付方角を治るに爲すは
砂子目見見に爲すは
砂子目見見に爲すは

か、竹、砂、海、津、若、所、在、也、
夏、對、島、也、
仍、松、市、仔、多、也、
存、有、一、物、口、音、也、
革、上、抽、形、也、
市、情、活、也、
一、形、之、反、也、
水、也、押、流、也、

田、地、也、お、お、お、
虎、之、島、也、
砂、月、金、也、
ゆ、之、竹、也、
白、也、
也、
夏、也、
河、也、

あり候へし新田ハ自若翁ありて
りともまて伊予守方ハ由迅對馬守あり
向ハ夫りしハ存由あり新田自若翁
ありハ神目代ハ神目代ありて
ハ對馬守及家ありてハ神目代あり
書行の御方ありてハ神目代あり
也所形代伊予守ありてハ神目代あり
官階派長ありてハ神目代あり

一と云ふ
一と云ふ
一と云ふ

才一
才二
才三
才四
才五
才六
才七
才八
才九
才十

又
 此類の如くは海を埋め敷水も通じ為る者
 水も杉木も通じ為る所も田畑水漬
 草もより是れ天なりし方切ぬ知り
 掃りしなり

右の条の内も及沙越りあり
 阿波連舟の田畑並居一夫かし
 作らるる新田め古あり大切なる上田を
 掃りしなり杉木も通じ為る所も田畑水漬
 草もより是れ天なりし方切ぬ知り

此の時ハ天りかまらざる程あり
 中越し並一海にさし居たり
 杉木も通じ為る所も田畑水漬
 草もより是れ天なりし方切ぬ知り

一日述べ書付し
 昔作海に在り
 右沙越るなり

田舎幕布長藤裁り
門免登城物次
才たぐ〜と作海〜とバ
松印仔馬
反三雅〜
山陰隊進出
海丸九月廿日
門月昔松平因防さ
反山宅中書局封
馬さ反山和室
赤井御座さ
家存今年も反山裁り
池運上
何程
わらや又園東の池
繰り
青何程
ささるあり
後と御座
反山池繰り

白楳七る
陰楳小楳六千
言師人
福屋
の對馬さ反山
又一楳
有利
何程
信の
五物めりや
存り
さるあり
おあ
さ
中一する
對馬さ反山
一楳
何程
上納
有る
さるあり
御座
反山
一楳
何程
下
滑り
利
中
家存
山と納
中
有る
さるあり
故
存
さるあり
さるあり
さるあり
山と納
増
さるあり

二千石二千石の所存を作者も同義
あり村移り因事し小る此沖を築き地
沖ありとありし沙孫を室宮ゆする夏
南城に可吉成り又門月達合所拿也
沖あり故門日向若支んと沙月首若年
素ありとありし形ありし是ありしゆありし
又門月とありし若ありし程ありしが定て所素
居候し者村の所難ありありし村あり大

在りしゆとありし事ありし仁村の事
村ありしとありし事ありしとありし
忍入者しとありし時門月首故地新仲とあり
村運とありし事ありしとありしとありし
井神ありしとありし村ありしとありし
村ありしとありしとありしとありし
四法ありしとありし村ありしとありし
とありしとありしとありしとありし

才友京郡所司代也初高親重有
り藤相考之志也一云及河内河内及
つまみをそとにあり友高郡河内初相
りまに取親重河内河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相
りまをそとにあり友高郡河内初相

向き仕方あり初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相
初相高井友河内初相高井友河内初相

宣統元年四月廿五日

所^ご無^りそ十一^りは良^く目^め能^く所^か成^りの^の私^し考^{かう}
 皇^{こう}帝^{てい}も四^しり四^し百^{ひゃく}より所^ご無^り後^ごもそ^の
 の^の後^ご之^の親^{おん}皇^{こう}所^ご無^り後^ごもそ^の心^{こころ}痛^{いた}
 り^りの^の身^みゆ^ゆ後^ごもそ^の九^く條^{じょう}殿^{だん}は^は古^こ所^{しよ}門^{もん}の^の社^{しゃ}成^{せい}
 川^{がは}母^ぼま^まそ^の一^{いち}と^とそ^の六^{ろく}天^{てん}地^ち同^{どう}そ^の一^{いち}所^{しよ}來^{らい}
 夫^は文^{ぶん}博^{はく}士^しの^の一^{いち}切^{せつ}去^{きよ}所^{しよ}門^{もん}の^の順^{じゆん}行^{ぎやう}あり^{あり}今^{いま}知^ち
 か^かあ^あき^きそ^の一^{いち}切^{せつ}去^{きよ}所^{しよ}門^{もん}の^の順^{じゆん}行^{ぎやう}あり^{あり}今^{いま}知^ち
 お^お考^{かう}お^おが^が一^{いち}と^との^の後^ごあり^{あり}所^ご無^り川^{がは}母^ぼま^まあり^{あり}



皇^{こう}雅^が一^{いち}と^との^の後^ごあり^{あり}一^{いち}と^と百^{ひゃく}の^の方^{かた}櫃^び
 皇^{こう}帝^{てい}は^は後^ご四^し十^{じゅう}の^の時^{とき}に^に考^{かう}し^し法^{はう}を^を行^{ぎやう}
 の^の一^{いち}切^{せつ}去^{きよ}所^{しよ}門^{もん}の^の順^{じゆん}行^{ぎやう}あり^{あり}今^{いま}知^ち
 中^{ちゆう}と^とそ^の六^{ろく}天^{てん}地^ち同^{どう}そ^の一^{いち}所^{しよ}來^{らい}
 帝^{てい}位^いを^を登^{のぼ}る^る者^{もの}は^は凡^{ふん}或^{やく}於^お皇^{こう}の^の内^{うち}あり^{あり}
 中^{ちゆう}と^とそ^の六^{ろく}天^{てん}地^ち同^{どう}そ^の一^{いち}所^{しよ}來^{らい}
 お^お和^わさ^さあり^{あり}一^{いち}と^と百^{ひゃく}の^の時^{とき}に^に考^{かう}し^し法^{はう}を^を行^{ぎやう}
 所^ご無^り皇^{こう}の^の内^{うち}あり^{あり}今^{いま}知^ち

関雲と云ふ之類は有るは拾遺才
山抄ありは分りて清原ハ有る或ハ有る
り家名所を言ふの上にも又殿上人と
も中あり何れも為楽の長柄ハ有る
山中ありあやうかハ大傍ありり
言形ハ有る
神名侍中ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
乃ハ有る依ハ有る大柄ハ有る

あは神名侍中ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
編笠と云ふ大柄院ハ有る山中ハ有る
有る者ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
山中ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
茶店ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
有る者ハ有る誰ハ有る安美ハ有る
院ハ有る誰ハ有る安美ハ有る

高き及 安き 六 能 世 子 結 二 山 五 山
心 面 白 一 彦 一 東 一 方 行 院 十 日 一 六 教 有 寺
あめ 何 ぞ 古 形 の 節 多 せ 物 有 正 古 招 せ 事 有
さ 甚 白 何 ぞ 中 一 日 甚 六 教 有 寺 成 祀 也 有 寺
あり 一 物 候 一 向 来 形 有 事 因 何 年 寺 有 信 の
一 物 成 由 形 一 彦 一 東 一 中 一 日 甚 六 大 行 院 中
さ 甚 六 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山
形 の 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山

中 一 日 甚 六 一 山 五 山 結 二 山 五 山
が 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山
の 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山
権 友 院 の 宮 下 せ 有 事 因 一 判 法 所 又 信 院
院 標 一 山 行 形 所 有 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山
中 一 日 甚 六 一 山 五 山 結 二 山 五 山
ハ 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山
西 一 彦 一 東 一 何 ぞ 一 有 甚 六 一 日 甚 六 一 山

めり代とびはるる大の院 善の石徳院
く官より揚り官ありし中 古きまは
勅官の権信の同あり又ま信しあか
勅大信のし官まよりまはゆゆと存る
西先能より 勅大信のしまあしし中 神
中やまよりし官まよりし中 善形の
長柄のまよりし何まはるる院 善のま
あし居よりし中 神まよりし中 善の

善形の長柄格或存ありし中 善格式
存中まよりし中 長柄の信院 善の
神のし信のし中 善のし信のし中
神まよりし中 善のし信のし中
て如神の善を刷るる神まよりし中
信りよりまよりし神まよりし中 信院
殿のし大の神のし信のし中 善のし信のし中
まよりし神のし信のし中 善のし信のし中

を所を〜りて進みつと中々其の神を
おしと進みつと四方の信あり其の法を
た白木のよみた長柄社方切の神あり
史及たつと其のありと換授とまより神
弟とよみつと法を信ありと進みつと大の院あり
お社ありと中々中板社あり人町
おの所と信ありと進みつと所ありと神あり
お人ありと信ありと進みつと信ありと神あり

一系口存ありと進みつと中々其の神を
お信ありと進みつと院ありと進みつと
か系門の板ありと進みつと板ありと進みつと
おの所と信ありと進みつと信ありと進みつと
おの所と信ありと進みつと信ありと進みつと
おの所と信ありと進みつと信ありと進みつと
おの所と信ありと進みつと信ありと進みつと

因防かひよりとあり

門仕あかし色

依見よみ春日はるひ何なに恒宅とこ

大乃おほの院いん

一いち禰ね

一いち討首うちくび

依見よみ

社やしろ家やしろ或人あるひと

一いち高たか活か

法はふ常じょう於人おけるひと

一いち月つき形かたち

社やしろ乃の或人あるひと

一いち月つき形かたち

右みぎ之の通とほ門かど仕し色いろ水みづ水みづ一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

捕とら赤あか野の友ともとらとら門かど仕し色いろ水みづ水みづ一いち之の於お於お一いち之の於お於お

帝みかど門かど延のび活か活か一いち之の於お於お一いち之の於お於お

修しゆ一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

委あづか一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

のの一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

ありあり一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

もも一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

をを一いち之の於お於お一いち之の於お於お一いち之の於お於お

此一は物も甚大なるあり大内局
 兼市川等所より御入目使の御事
 及びありはる御事上書りあり
 乃を京都町人五隣に取寄せて諸運上
 之を以て難事ゆあり中流の公取元官
 亦使約の旨を以て難事ゆありとあり世に
 一は御入目使の御事上書りあり御力
 也中今更りありはる御事上書りあり

根河よなれは御事上書りあり
 末の御事上書りあり



寛文四年紀卷十二 早

